ARCHITECT

NO.297

2013. 6. JUN.

CONTENTS

自作自演170 …… 三保久利・山田高志・森川　礼・村山恒久 …… 2
第５回　まちの風景
夕夜景～風景をとらえる感性 …… 大影佳史 …… 4
第４回　インドの都市から考える
水辺の建築空間 ガート …… 柳沢　究 …… 6
2013年度　通常総会レポート　吉元　学・清　峰芳・三輪邦夫・西川光広・西出　章 …… 8
JIA静岡発　特別企画　早春の富士宮・柚野の里ウォーキング …… 鈴木俊史 …… 10
JIA静岡発　建築家講演会（総会）「構造設計の役割と可能性」金箱温春氏 … 清　峰芳 …… 11
JIA愛知発　JIA愛知美術サロン展　力作ぞろいに来訪者400名 …… 12
榎戸正浩・梶田英夫・神谷義夫・栢本良三・川窪　巧・後藤文俊・田中英彦・
福田一豊・山田尊久・山田正博・吉川法人
JIA愛知発　事業委員会 講演会　環境建築を巡る旅 …… 小坂井孝 …… 14
JIA三重発　総会記念講演会　来春会館・新博物館の構想を聞く …… 西出　章 …… 15
▶東北からのメッセージ
震災復興シンポジウム2013「みやぎボイス」を振り返って …… 櫻井一弥 …… 16
会員のステージ
高橋敏郎さん（JIA会員）の講演を聞いて …… 竹中アシュ …… 17
「だがねランド」の子どもたち …… 鈴木賢一 …… 18
Bulletin Board …… 19
保存情報 第139回 熊谷家 …… 冨田正行 …… 20
神谷家住宅茶室（孤蓁・柏露軒・腰掛待合・中潜門）…… 谷口　元 …… 20
理事懇談会レポート …… 鳥居久保 …… 21
東海支部役員会報告 …… 江川静男 …… 22
東海とっておきガイド㊺　三重編 …… 滝井利彰 …… 23
地域会だより …… 23
編集後記 …… 田中英彦・横山正登 …… 24

映画の中の建築 ❸

金閣寺

タクシーで金閣寺を訪れたとき、運転手が焼失前の姿を見たいかといってセピア色の１枚の写真を見せてくれた。それによると当時は２階に渡り廊下が繋がり、見物客や芸妓のような女性が楼閣に遊んでいて驚いた。そんな俗化された姿から映画「炎上」（1958年、監督市川崑、脚本和田夏十、主演市川雷蔵）を思い出した。

映画は1950年に住み込みの修行僧が国宝「金閣寺」を放火し焼失した事件を描いている。原作は三島由紀夫の代表作だが、さすがにこの観念的な小説をそのまま映画にすることは難しく、脚色が加えられている。また映画化には寺側が反対したため、金閣寺は二層の驟閣寺として表れる。自分の美の象徴である金閣寺が戦後急速に観光化し俗化するのを目の当たりにし、苦悩する吃音の孤独な青年を若き日の雷蔵が見事に演じている。そして、それを日本映画黄金期の俳優陣、スタッフが支え見事なモノクロームの映像美あふれるフィルムになった。

焼失した金閣寺は５年後には再建され金箔は以前にも増して光り輝き、その美しい姿を一目見ようと今日も大勢の観光客で溢れている。自分だけの美に封じ込めようとした青年はあの世で何を思うだろうか。

光崎敏正｜愛知地域会

06_アーキテクト.indd　1　　13.5.23　4:38:06 PM

自作自演⑰⓪

三保　久利（JIA静岡）

三保建築設計事務所（静岡市葵区沓谷5-4-2 TEL 054-264-0873　FAX 054-264-0853）

最近中国事情（ハルピン編）

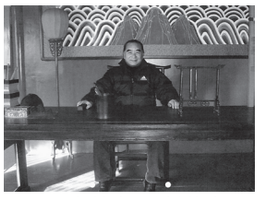
連休の始まる4月末より、中国ハルピンに行ってきました。連休初日でしたが、いざ空港に着きますと帰省する中国人と外人ばかりで、日本人は数人の乗客でした。今、中国への旅行は、鳥インフルエンザ、PM2.5、反日感情などの危険が伴うことが倦厭されているからなのかも知れませんが、このようなときこそ本音の中国に触れられて面白い経験ができる、と興奮する私でした。

ハルピン空港ロビーの雑踏の中に身を置きますと、相変わらず中国語の大声での会話、予想をはるかに超える大きな荷物を持った旅客、列に並ばないルール無視の人たち、禁煙看板の前で平気で喫煙する人、ゴミが散乱する綺麗とは言えない空港施設…。中国北部で反日感情を感じたことはなかったのですが、日本語を話すと、敏感に反応して鋭い目で振り返る若者がいる、そんな変な中国を堪能してきました。

空港からのタクシーに乗り街に向かう道中、並行して走行している一般車両の窓に「日本人と犬　接近禁止」のステッカーを発見、ここまで来ていたのか、と緊張しました。

現在の中国は、自動車（日本車、外車、韓国車）が溢れるほど走っている社会ですが、警笛を鳴らしながら走り、信号機があっても守らず、歩行者は6車線道路でも車両前を平気で横断。事故が起こらないか?と思ったら目の前で車両同士の事故、お互いの主張を大声で罵倒する運転手、いつも高級車の勝ち。

目の前に起こる事件の多さに付いていけない日本人。緊張感のない我々には疲れる中国ですが、国際社会は異種類国との共存社会、常にお互いを理解するのは難しくとも、理解しようと歩み寄る態度は必要ではと考えさせられます。



ハルピンの史跡保存役所（裁判所）にて

山田　高志（JIA愛知）

山田高志建築設計事務所
（名古屋市東区東桜1-14-5 イースタンビル北館41　TEL 052-963-3666　FAX 052-963-3667）

人の生命（いのち）

いつものように、バタバタと身支度を済ませ、車に飛び乗って 事務所に向かう朝。カーラジオの渋滞情報や、テレフォンショッピングのいつまで続くのかと思うオーバーな掛け合いに、ウンザリしながら信号待ちをしている。

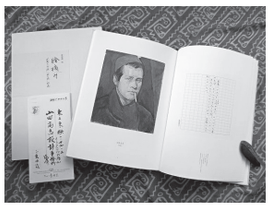
ふと、前の軽自動車のバックミラーに映るのは、長い髪の女性のようである。鏡の様子から、どうもこの短い信号待ちごとで仕上げていく、片っ端からのお化粧タイムのようだ。ヤレヤレ と思いながら鏡から目をそらすと、見つけてしまった。後部座席右側が、半ドアであることを。

「イヤイヤ、伝えてあげなくっちゃ・・・」。一瞬、躊躇する。猛烈なお化粧タイム、割り込んで然るべきかと。無常に変わる信号は「青」。まったく気づいていない様子の軽自動車。サッサと発進してしまう。「仕方がないなぁ、次の信号で」と後ろを追いかけるが、…次の停車、白いセダンが割り込んで前を塞いだ。

「教えてあげなさいよ。教えてあげてよ…何やってんの」。フロントガラス越しに見える、遠く小さな二つのバックミラー。見知らぬ前の二人の人物に気を揉んでいる。ダメ出しをしながら人格まで否定しそうである。…

長い髪の肩越しに 運転席の窓ガラスを静かに 二つ、「コンコン」。無言で指差す後部ドア。なるべく丁寧に、開けて「バタァッ」… 閉める「ドゥン」。

手を貸していただくほうが断然多い日常で、窪島誠一郎氏の『繪摘み』（etsumi）に出会いました。〔書肆壺中天〕ホームページをご覧下さい。http://www.kochuten.net/



窪島誠一郎 限定本『繪摘み』（販売・問合せはぎゃらり壺中天、または信濃デッサン館まで）

06_アーキテクト.indd 2　13.5.23 4:38:07 PM

森川　礼（JIA愛知）

中建築設計事務所（名古屋市中区新栄1-27-27　TEL 052-262-4411　FAX 052-262-4414）

乱読歴

年賀状に前年の読書感想をびっしりと書き込んでくる友人がいる。学生時代には埴谷雄高や高橋和己、真継伸彦などといった作家の作品を読み語り合った仲だが、彼は思考の糧として熟読玩味し、私は知的興味（好奇心）とでもいうことから読み流しているのだから、彼の思弁にはいつも圧倒されていた。彼との交流は刺激的ではあったが、私の読書スタイルを変えるには至らなかったようだ。

社会人になると趣味的分野の読書に費やせる時間は僅かで、より一層その時々の興味で手にした本を読み流すようになり、邪馬台国論争で古田武彦や宮崎康平、万葉ブームで梅原猛、社会評論でエズラ・ヴォーゲルやポール・ケネディ…と漂流し、また小説は文芸作品から徐々に遠ざかっていった。

通勤が電車から車になり、社会的活動も増大して、費やせるのは就寝前の一時がほとんどとなると、新聞などの書評にそそられても大冊には手が出ず、ストーリーテラーな小説の文庫本がベッド脇に積み上がっていくようになった。現実感の薄いサスペンスやミステリーなどには興が乗らず、ジェフリー・アーチャーやクライブ・カッスラーといった社会や史実を背景にしたドラマチックな展開をする作家のものが大半を占めていた。

齢重ねて反転、時間的な余裕が徐々に増し始めてきた。就寝前の文庫本の楽しみはそのままに、少しずつでも思索的な大冊に回帰し、読書感想を送り続ける友人の期待にこたえねばと思うのだが、ギャップを埋める体力気力は危うく、実現は険しい。

村山　恒久（JIA岐阜）

村山建築設計事務所（岐阜市沖ノ橋町2-25　TEL 058-251-4777　FAX 058-251-4818）

「信長公居館」の構想

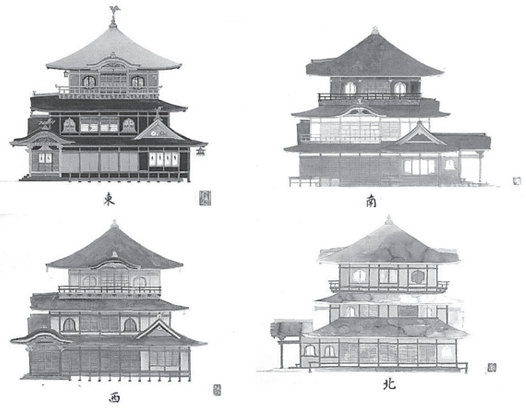
私も所属するNPO法人「トラスト岐阜」は、岐阜県および周辺地域の歴史・文化的価値が高い建築物などの保存と活用に関する事業を行っています。いくつかの活動を経て、現在は岐阜市における「織田信長」をテーマにした街づくりに焦点を当てて、勉強会・講演会を行っています。その成果として、金華山麓の「信長公居館」の再生素案を発表しました。

＜信長の性格＞

1. おおいなる顕示欲の持ち主である。
2. 物事を合理的科学的にとらえ実践している。
3. 物流経済に精通し審美家でもあった。

＜居館の構想＞

1. 足利将軍を超えるため「金閣・銀閣」より華麗壮麗につくる。
2. フロイスの表現による「劇場風建物」は表御殿とし「金閣寺」を模した建物であり、「迷宮のような建物は」奥御殿で「銀閣寺」を模した建物であったと考える。
3. 山下にある城下町からは、頂上にある天主と表御殿、奥御殿が三層に見えるようにつくられたと考える。



「トラスト岐阜」会員による「織田信長公　居館想像図（表御殿）」

06_アーキテクト.indd　3　13.5.23　4:38:07 PM

夕夜景〜風景をとらえる感性

大影佳史｜名城大学理工学部環境創造学科 准教授

人間に豊かな環境体験をもたらしうるものとして、時間的な環境の変化、1日の変化や季節の変化などが挙げられるだろう。たとえば、子どものころ、暗くなるまで遊んだ記憶は多くの方がお持ちのことと思う。

このような、印象に残る風景や原風景などの心象風景について研究がなされているが、中でも夕刻の時間帯の事例、環境の変化により生じる風景が多く挙げられることが報告されており[注1)]、そのような風景は印象に残りやすい側面もあるようである。

文化的にみても日本人は伝統的に、1年を通じては四季の変化、1日の中では特に昼から夜、あるいは夜から朝へと移り変わる境界の時間帯の風景に価値や特別の意味を見出してきたといえる[1)]。

例を挙げれば、たとえば景観の八景式鑑賞法というものが知られている。金沢八景、近江八景など○○八景という語をお聞きになったことがあろうかと思う。これは、中国、湖南の瀟湘八景と呼ばれるものが発祥であり、これになぞらえたものである。鑑賞対象である景の型として時刻や天候の変化などが重要な要素として意識されていることが特徴的である。そして時刻においては、8つの景のうち、6〜7つまでが夕から夜にかけての時間帯を対象としていることが興味深い(図1)。

「はるはあけぼの　やうやうしろくなりゆく…」ではじまる清少納言「枕草子」のように、古典文学作品の記述などを見ても、季節の変化や、1日の中でも昼夜の移り変わる時間帯の描写は多く見られる。ちなみに、「枕草子」では、はるは「あけぼの」、なつは「よる」、あきは「ゆうぐれ」、ふゆは「つとめて」(早朝)としてその様子が描かれている。

また、俳句における季語のように、時節に意識的な文化があり、さらには、年中行事も含め、「歳時記」が存在する。

我々の有してきた日本語の語彙を調べた研究によると、昼・夜の時間帯に比して明け方や夕暮れ時の境界の時間帯の現象に関する語彙が多いことが報告されている[2)]。

これらは一例であるが、日本人は伝統的に、環境の移ろい、変化を感じとる感性を持ち、そのような文化を有していると見ることができる。

瀟湘八景	添景		時間		天候	近江八景	金沢八景
	視覚	その他	季節	時刻			
平沙落雁	雁		秋	(夕)		堅田落雁	平潟落雁
遠浦帰帆	船			夕		矢橋帰帆	乙艫帰帆
山市晴嵐	雲	(風)	春または秋	昼	嵐	粟津晴嵐	洲崎晴嵐
江天暮雪	雪		冬	夕	雪	比良暮雪	内川暮雪
洞庭秋月	月		秋	宵	晴	石山秋月	瀬戸秋月
瀟湘夜雨	雨	(雨音)		夜	雨	唐崎夜雨	小泉夜雨
煙寺晩鐘		(鐘)		夕または夜		三井晩鐘	称名晩鐘
漁村夕照	夕焼			夕	晴	勢多夕照	野島夕照

図1　八景式鑑賞法の変動要因(参考文献[4)]に基づき作成)

今回これについて触れようと思ったのは、現在の都市環境、日常生活の中で、このような環境の移ろい、変化を感じとる感性が、失われつつあるのではないか、と案ずるところがあるからである。日常のまちのくらしで、環境の変化、風景を、どれほど感受することがあるだろう。

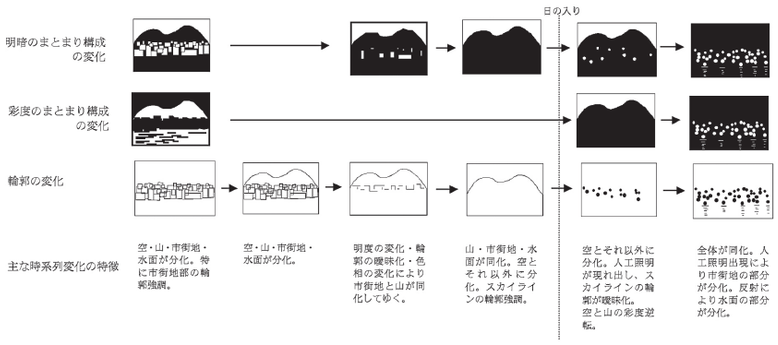
冒頭、印象に残りやすい風景のひとつとして、夕刻の時間帯があることを記したが、筆者も近年、既往の研究にならって、子どもの頃の遊び、記憶に残る風景について大学生に尋ねている。今のところ多くの学生は、小学校のグランドか公園の遊具を描くのみであり、どうも環境との呼応、環境への感受性を読み取ることができない。われわれの日常生活(特に都市部)の経験を顧みても、いつの間にか暗くなっている、夜になっている、ということが大半なのではないだろうか。

とすると、現代の都市環境は、これまで述べたような環境の変化を感じ取ることができる環境であるだろうか、どのような環境であれば、そのような感性を育んでいけるのだろうか、ということが問いのひとつとなる(問題は、環境側の問題と人間側の問題、表裏一体のことであるのだが)。

これまでの筆者の研究の中で、昼から夜にかけての移り変わりは、(視覚的に)どのようなものか、分析したことがある。

(図2)は分析対象の一例で、ある景観の昼から夜にかけての変化を時系列に画像として記録したものである。これは山や池の水面、木々、建築物などの景観構

06_アーキテクト.indd 4 13.5.23 4:38:08 PM



左｜図2　昼から夜、時系列変化画像（例）
右上｜図3　夕刻の景観の時系列変化の特徴（モデル図）
右下｜図4　京都名所「四条河原夕涼」（安藤広重筆）

成要素からなる景観の事例だが、このほかさまざまな事例について、画像処理を用いた分析を行った（詳細な分析や結果説明は省略する）。すると、変化の特徴について、当初は、全体として暗くなっていく、夕焼けにより空が赤くなるといった一般的で分かりやすい説明が想定されたが、実際に生じているのは、そのような単純な変化だけではなく、各景観構成要素ごとに色彩特性、その時間的な変化傾向が異なることによって、まとまりの具合や、強調されやすい箇所など、より複雑な変化が生じていることが読み取れたのである。そして、景観構成要素の中でも特に、空、山、水面といった自然要素が、夕刻の景観の様相変化において大きな影響を持つことが示唆されている。

（環境の変化を感受するにあたって空が重要であることは容易に想像できるであろう。加えて、夕刻の変化において、空と山の関係、空と山と水面の関係などにも特徴的な変化のパターンが見られ、そのような自然要素が視覚的に重要な役割を果たすことが示唆された。（図3））

これに関して、その後、被験者実験を行い、たとえば極端な例では、都市内のビル群などに囲まれた環境とそうではない自然要素（空、山、水面など）を含む環境、また、そのような景観構成要素の組み合わせ、割合や配置などの景観構成の違いによって、環境の変化の仕方およびその感受のされやすさが異なる可能性が示唆されている（ここでも、自然要素の重要性が示唆された。このほか、特に空とほかの要素との関係が重要となること、また照明点灯の時刻の影響なども見られた）。[3)]

ともあれ、述べてきたような環境の変化が存在し、それを感受できることは、環境と人間の関係の重要な一側面であるはずである。また、前半に述べたような文化的背景を受けて、先人が育んだ感性を継承していけるような環境づくりは、建築や都市にかかわるものの取り組むべき課題のひとつではないかと思う。

環境の変化を意識したという意味では、古くは阿弥陀堂の建築や、観月を意図した庭空間なども思い当たるが、都市の空間として気になる例として、広重の描いた図絵を挙げておこうと思う（図4）。「四条河原夕涼」とあるように、これも夕刻の様子である。環境との呼応の様子は興味深い。

注1）　堀ほか[5)]は大学生にアンケート調査を実施し、日常空間そのままでは「印象的」というインパクトを与えず、太陽（朝日・夕日）・桜・雪・夜景などの要素により日常空間が清新化され「印象的な風景」となるとしている。

茂原ほか[6)]は青年男女を対象に「原風景」についてアンケートを行い、全体の41％を占める「日常遊び型」の時刻で夕方が多いことを示している。また構図・景観要素・時節などのカテゴリーで「秋冬・天空型」が全体の33％を占め、その特徴は秋・冬の空あるいは夕方であるとしている。

■参考文献
1）小林亨：移ろいの風景論 - 五感・ことば・天気、鹿島出版会、1993
2）小林亨：景観の移ろい効果に関する基礎的研究、造園雑誌、1987.3
3）大影佳史：時系列連続写真の分節実験からみた夕刻の景観の印象変化に関する基礎的考察、日本建築学会計画系論文集、2011.1
4）篠原修：新体系土木工学59土景観計画、技法堂出版、1982
5）堀繁ほか：体験された風景の構造、造園雑誌、1988.3
6）茂原朋子ほか：青年の" 原風景" の特性と構造に関する研究、日本都市計画学会学術研究論文集、1991.11

おおかげ・よしふみ｜京都市生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程（～1998.3）。京都大学大学院工学研究科助手（1998.4～）。博士（工学）京都大学（2002.11）。名城大学理工学部講師（2003.4～）。同准教授（2007.4～）。一級建築士。作品に「京都大学総合博物館（南館）」「愛知万博瀬戸会場竹の日よけプロジェクト」。共著に『都市・建築の感性デザイン工学』『建築思潮05（漂流する風景・現代建築批判）』など。建築・都市・環境デザイン

◉次回は８月号掲載です。

06_アーキテクト.indd　5　13.5.23　4:38:09 PM

〈隔月６回連載〉

インドの都市から考える 第❹回

水辺の建築空間 ガート

柳沢　究
名城大学理工学部建築学科 准教授

やなぎさわ・きわむ｜ 1975 年横浜市生まれ。2001 年京都大学大学院修了。2003 年神戸芸術工科大学助手。2008 年一級建築士事務所究建築研究室設立。2012 年より現職。博士（工学）作品：「斜庭の町家」「紫野の町家改修」「SAKAN Shell Structure」ほか。 著書：『京都げのむ』「生きている文化遺産と観光」「無有」ほか。 受賞：地域住宅計画賞、京都デザイン賞入選、雪のデザイン賞奨励賞、タキロン国際デザインコンペ２等ほか。

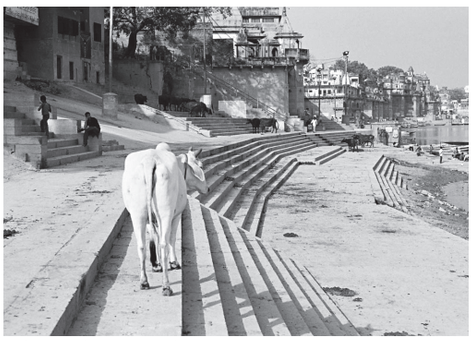


写真１：川岸の全域が建築化されたヴァーラーナシーのガート。川の流れに沿って弧を描いている

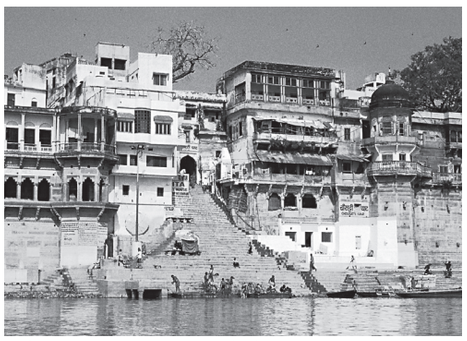


写真2：ガートと背後に立ち並ぶ建築の複合。雨期には中ほどまで水没する

▣インドでは水辺が建築化される

インドの各地を旅して気がつくのは、川や池といった水域の周辺がしばしば広範囲にわたって階段状に整備されていることだ。そのような水辺に設けられた階段状の施設を総称して「ガート（Ghat）」と呼ぶ（**写真1**）。水辺を階段状に整備するのは、水位の変動にかかわらず水面へのアプローチを可能とするためであろう。護岸や船着場、水辺の作業場としての機能もある。もとより水辺はインドに限らずとも生活にとって欠かせない場所であり、類似した水辺の階段状施設は世界各地に見ることができる。日本では、瀬戸内海地方を中心に「雁木」と呼ばれる同様の施設が見られる（特に鞆の浦の雁木はガートとよく似ている）。

しかしインドほど水辺を建築化することへ執着する文化は、世界的にみても珍しいように思う。最もシンプルなガートでも最低数メートルにわたる幅があり、多人数によるさまざまな利用を許容する規模を有している。複数の階段が複合し池の全周がガートで覆われていたり、時に寺院や宮殿などの建築と一体化した大規模なコンプレックスと呼びうるものまで、インド各地で多岐にわたるガートが見られる。このようにインドで多様なガートが建設される背景には、水辺がヒンドゥー教において極めて重要な宗教的意味を持つという事情がある。

ヒンドゥー教では聖地のことを「ティールタ（tirtha）」と言うが、この語はもともとサンスクリット語で「水辺」「渡し場」を意味する。このことが端的に示すように、ヒンドゥー教では水にまつわる場所が神聖視される。その理由は、第一に水そのものが聖なる力を有するという観念による。すなわち水は物理的な汚れのみならず罪や穢れをも浄化するとする思想である。この感覚は日本人にとっても馴染み深い。その力の直接的な利用法である沐浴は、ヒンドゥー教で最も重要な儀礼の一つである。第二にヒンドゥー教において特に重要なのは、水辺が死と深いかかわりを持つという点である。南アジアで最も広く行われている葬制は火葬であるが、これは残った遺灰を川に流すという水葬儀礼をともなっている。その遺灰は川を流れ下り、やがてはシヴァ神の住むヒマラヤの懐に至ると考えられている。つまり水辺は死者の他界への出発点であり、それゆえ水辺（とりわけ川辺）は神聖な場所とされるのである。

▣ヴァーラーナシーのガート

現在、建築的にまた活用状況においても最も魅力的かつ壮麗なガート群が見られるのが、北インドの聖地・ヴァーラーナシーである。ヴァーラーナシーは、川が神聖視されるインドにおいて（ガンジス川やヤムナー川をはじめとするインドの主要河川の多くは女神として神格化されている）、最も篤く信仰されるガンジス川の西岸に位置する。高密な旧市街は川になだれ込まんばかりに水際ぎりぎりまで迫り建ち、南北約6kmにわたるその川岸のほぼ全面が、幾重にも連なるガートにより隙間なく埋め尽くされている。

ガンジス川は乾期と雨期とでは7m前後の水位変動があるため、ガートの高さは数mから高いものでは10m程度におよび、その背後にはインド各地の王侯貴族により建設された宮殿や大小の寺院が建ち並んでいる（**写真2**）。これらのガートは毎朝、旭日を拝しながら沐浴やプージャー（祭祀）を行うインド各地か

06_アーキテクト.indd 6 13.5.23 4:38:09 PM

写真３：火葬ガートの様子。背後には薪が積まれている

写真４：最もよく見られるガートの日常風景

写真５：蒸し暑い雨期後半の夕涼みに集まる人々

らやって来た夥しい巡礼者で賑わっている。ガートとその背後の建築群は、三日月形に流れる川に沿って湾曲し、さながら東岸に昇る太陽と巡礼者とを包み込む円形劇場のような劇的な空間をその場に生みだしている。

回葬送空間としてのガート

「大いなる火葬場」とはヴァーラーナシーの異名であるが、この都市が格別な聖地とされる大きな理由は、都市の中心に火葬ガートを抱いていることによる。現在では二つのガートがその役割を負っている。そこには、荼毘に付され遺灰をガンジス川に流されることを望む人々が、インド各地から年間数万人、死ぬためにあるいは死んだ後に訪れ、川岸には荼毘の煙が日夜絶えることがない（写真3）。

火葬ガート周辺には、生前からこの地で臨終を迎えることを望む人々が滞在する、俗に「死を待つ家」と呼ばれる施設が複数あり、ヒンドゥー教の死生観を如実に示す場としてしばしばメディアにも紹介されている。しかし少なくとも150年前、状況は現在とだいぶん異なっていた。当時死の直前に都市へ連れられてきた人々の多くは、何のケアも受けずガートにそのまま露天で放置されたり粗末な小屋に寝かされたりして、ただ死を待つのみであったという。19世紀前半に当地に滞在したイギリス人神父はこの状況を「ガート殺人」と呼び、憤りを込めて弾劾した。そして衛生学と人道主義に則り、ガートに病人を「遺棄」することを禁ずる法律が制定されることになる。けれど法的規制にかかわらず、死にゆく人々はやはりガートに運ばれ続けたという。当局はさらにガンジス河岸での火葬そのものの禁止を目論んだが、やがてそれが不可能な試みであることを悟るにいたる。「火葬場が都市のためにあるのではなく、都市が火葬場のためにある」とは、当時の行政文書に記された文言である。

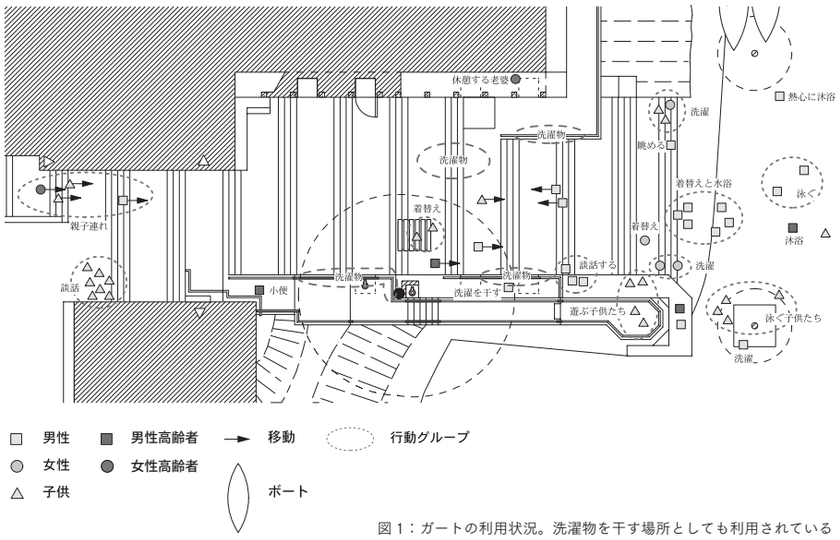


図１：ガートの利用状況。洗濯物を干す場所としても利用されている

インドの伝統的葬送制度との対決を諦めたイギリスは、その後、公衆衛生向上と近代医療の普及による状況の改善につとめる。「死を待つ家」は、そのような近代的衛生概念とヒンドゥー教的死生観との妥協、あるいは融合の産物として、20世紀初頭に成立したと考えられる。聖地としてガートのあり方もまた、少しずつ変容しているのである。

回生活空間としてのガート

しかしながら、巡礼者で賑わうガートや火葬ガートは、川岸に広がるガートのごく一部を占めるにすぎない。ガートの残りの大部分は都市住民の日常生活に供されている。ガートは水浴（水泳）や洗濯、商売、散策や休息（夕涼み）、社交に子どもたちの遊び、さらには家畜である水牛（水牛の生命維持には定期的な水浴が欠かせない）の水浴びの場として、きわめて日常的な生活行為が営まれるパブリックなオープンスペースである（写真4・5）。図1は旧市街地中心部のガートにおける、ある時間帯の使用状況を記録したものであるが、巡礼者や観光客が行き交うガートが、同時に実にさまざまな生活行為の舞台となっていることが分かる。当地では、日中の暑い日射は基本的に好まれないが、ガートに付随する建築的要素（周辺建物のベランダやニッチ、テラスなど）は適度な日陰の居場所をつくり出し、さまざまな余暇的行為に開放的で快適な環境を与え、都市の公共の居間として機能している。とりわけ子どもたちにとっては、高密度な市街地にはない広々とした絶好の遊び場となっているのである。

このような自然地形と人工構築物、さらに人間の諸活動が渾然としながらも調和して営まれているガートの風景は、ヴァーラーナシーのみならずインドを代表する文化的景観といってよい。

◉次回は８月号掲載です。

06_アーキテクト.indd 7 13.5.23 4:38:10 PM

通常総会レポート

4月から5月にかけてJIA東海支部ならびに静岡、愛知、三重、岐阜各地域会の通常総会が行われた。

鳥居久保・東海支部長

尾林孝雄・静岡地域会会長

●東海支部

5月10日（金）APAホテル名古屋錦にて

水野豊秋幹事長により開会宣言され、鳥居久保支部長より挨拶。「JIAは公益社団法人になった。公益とは人から求められていることをやるNeeds（ニーズ）であり、対極は自分のしたいことをやるWants（ウオンツ）である。東日本大震災の復興事業である「みんなの家」で伊東豊雄氏が地域の人の「庇があったらいいね」という言葉を聞いて、伊東建築に初めて庇をつけた。建築家は崇高な理念から活動してきたかもしれないが、これからはニーズに対して活動していかなければならない」。

また、審議に先立ち4月1日より施行されている規定改正が総会日程の都合で後追い承認になった旨の説明があった。来賓には本部より芦原太郎会長、小田義彦副会長をお迎えした。総会に先立ち中川猛会員（静岡）、車戸徳蔵会員（岐阜）お二人の物故会員に対して黙祷をした。

定足数（会員数407名のうち出席者61名、有効委任状161名で会員数の1/5以上）を確認し、総会は成立。議長に大石郁子会員（静岡）が選出され、議長により議事録作成者に石田壽会員（愛知）、議事録署名人に江川静男会員（静岡）、鈴木慶智会員（愛知）の各氏が指名された。

第5号議案（その他）は特に提案事項がなかったため削除された。

第1号議案、第2号議案は関連があり一括で審議された。第1号議案2012年度事業報告は鳥居支部長より説明。東海大会が開催され、規定類の制定や新々会計などの対応、また「ARCHITECT」の発行、支部設計競技、卒業設計コンクールの支部3事業に加え住宅建築賞の準備検討を行った。さらに服部滋氏を中心に総務委員会が創設された。

第2号議案2012年度収支決算は水野幹事長より新々会計基準によって発表された。公益会計と法人会計の比率は実際には本部指示による割振りがあり（人件費の按分）、今後変更されることがあるとのこと。中村久監査より適正であると意見があり、質疑はなく、第1、2号議案共、挙手多数で承認された。

第3号議案支部規定改正の件は、水野幹事長より内容変更により会員名称が変更になるなどの要点の説明があった。地域会に所属していない会員（三重）より今後どうなるのか質疑があった。ほかの会員（愛知）より、決算の内訳が確定していないことに対する質疑もあった。挙手多数によって承認された。

第4号議案役員選出規約改正の件は、水野幹事長より11条以外には大きな変更はない旨の説明があった。質疑はなく、挙手多数によって承認された。

今年度の事業計画と予算は本部の理事会に審議が一本化されたため報告事項となった。鳥居支部長より基本方針、基本計画が、水野幹事長より2013年度予算について説明があった。質疑はなく、以上をもって総会は終了した。

吉元　学｜東海支部会報委員長・愛知地域会ブリテン委員長

●静岡地域会

4月24日（水）ホテルシティオ静岡

尾林孝雄会長は挨拶の中で、公益法人化に伴う変更点として①地域会の存在は、本部では地域会規程、支部では地域会規約、地域会では地域会規則として定められる。②会員種別の変更。③会費は本部、支部会費があり、従来の地域会費は地域会活動費となる。④総会の事業計画、予算案は決議事項ではなく、報告事項になる。ことを報告された。

村松謙一議長選出後、伊久美太助規則作成検討委員長による地域会規則作成の経過説明があり、審議後、承認がされた。

事業報告では3回のJIA塾、4回の建築ウォッチング、HPのリニューアルなどが報告された。また5名の新規正会員と3社の協力会員の入会報告があった。決算ではあいかわらず厳しい会計事情の中での報告があった。以上、議案の一括審議の後、賛成多数で承認された。花村監査の監査報告後、地域会費から地域会活動費への移行の議案が承認された。

続いて事業計画と予算案が報告された。尾林会長は公益保護と公益寄与を目的とする中で、より質の高い事業の継続、防災面での活動の活発化の2点を柱に、一般市民、および建築を志す者にとって、魅力あるJIAの原点に返り会員増強をしていく必要性と会員の協力を説いた。

その後、金箱温春氏の講演会（P11掲載）があり、講師、来賓、新入会員、協力会員も交えて懇親会が開かれた。

清　峰芳｜静岡地域会広報委員長

06_アーキテクト.indd　8　　13.5.23　4:38:10 PM

鈴木利明・愛知地域会会長

会場の様子。左が長尾英樹・岐阜地域会会長

松本正博・三重地域会会長

●愛知地域会

5月10日（金）APAホテル名古屋錦にて

開会の挨拶で、鈴木利明会長より、JIAが本年4月1日付けで正式に公益社団法人として新たなスタートにこぎつけた、それに伴い、愛知地域会規定改正などが今総会の議題に提案されており、活発な議論をお願いしたい旨が説明された。

司会進行の澤村喜久夫総務委員長より定足数の確認が行われ、会員数279名（2013年5月10日）のうち出席44名、委任状100名で合計144名。会員数の1/5の定足数を満たしていることを確認し、総会の成立が宣言された。議長に福田一豊会員を選出し、議事録署名人に植野收会員、山内久高会員を選任した。第5号議案その他の項目は、出席者からも議案提案がないため削除され、議事が進行された。

第1号議案2012年度事業報告承認の件と第2号議案2012年度収支決算（監査報告）承認の件は一括承認。第3号議案愛知地域会規定改正の件の承認、第4号議案愛知地域会役員選出規約改正の件も承認された。続いて今年度から報告事項となった2013年度事業計画と2013年度予算が報告された。

すべての議案が滞りなく審議、承認され総会は閉会し、第2期鈴木体制がスタートした。

三輪邦夫｜
愛知地域会広報室室長

●岐阜地域会

４月24日（水）グランベール岐山にて

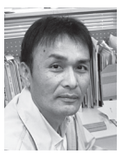
通常総会は定刻通り村山恒久副地域会長の司会により定足数の確認が行われ、正会員22名のうち出席13名、正会員数の1/5の定足数を満たしたことを承認した。議長に加藤幸治氏を選出、議事録署名人に大瀧繁己地域会幹事・西川光広地域会幹事を選任した。

議長進行により、第1号議案2012年度事業報告・2012年度収支決算報告、第2号議案2013年度事業計画（案）・2013年度収支予算（案）は、拍手をもって一括承認された。

同時に、長尾英樹地域会長より新年度へ向けた以下の基本方針が示される。

岐阜地域会としては、公益社団法人に移行した節目の年にふさわしく、公益性の高い事業と、会員の増強を中心に事業を行う。その柱として「地域街つくり事業」をスタートさせる。建築家として、本当に市民の皆様にお役に立つことは何か？を考え、市民の皆様との対話を重視し、今まで見過ごしてきたことを顕在化させ、それを具体化させることで、市民の皆様に喜ばれることをやっていきたい。今、建築家にとって何をすべきかをふまえて熱く語られ、総会は無事終了した。

総会後、懇親会を開催。来賓の方々にも参加していただき、新たな出会いの場、そして語らいの場となり、新年度への意気込みを感じながら、無事終了となった。


西川光広｜
岐阜地域会広報委員長

●三重地域会

4月20日（土）東洋軒にて

松本正博地域会長の開会挨拶では、昨年、三重地域会主幹で開催された東海支部大会が成功裏に終わったことと、地域会が発刊した『三重の建築散歩』への尽力に対して労いの言葉が述べられた。また、本部で作成した公益社団法人への移行による一般市民向けのパンフレットができているので、有効活用するように要請があった。東海支部よりご出席の水野豊秋幹事長からは、支部大会のお礼と公益法人化により会員種別の変化が生じるが、それにふさわしい活動をしてほしい旨のご挨拶があった。

議事は、議長の村林桂氏の進行により進められた。出席者18名、委任状7名により、会員数34名中1/5以上の出席に相当し、総会成立が宣言された。第1号議案2012年度事業報告は出口基樹氏、第2号議案2012年度事業収支決算報告は奥野美樹氏により説明され承認を得た。本年度は、公益社団法人に移行した年度であり、地域会規則案が第3号議案として上程され、原案通り承認された。その結果、地域会規則第11条第3号の取り決めにより、2013年度事業計画及び2013年度事業収支予算は報告事項となり、従来の総会における承認事項とは異なった取り扱いになっている。

総会閉会後は三重県新博物館学芸員の天野秀昭氏によりご講演をいただき（P15掲載）、その後同会場にて講師を交え懇親会を開催した。

西出　章｜
三重地域会広報委員長

06_アーキテクト.indd　9　13.5.23　4:38:12 PM

JIA 静岡発　特別企画

早春の富士宮・柚野の里ウォーキング

西山本門寺　黒門

3月17日、ぽかぽか陽気の日曜日。「柚野の里」（富士宮市芝川エリア）へウォーキングに出かけてきました。参加者は8名。

朝９時、JR富士駅の身延線ホームは、我々のほか、リュックを背負った壮年の人、デジタル一眼レフを首から下げたカメラ女子、若いカップルなど「富士錦酒造の蔵開き」に向かう人たちでいっぱいです。人が多すぎたからでしょうか、2両編成のワンマンカーは30分も遅れて出発です。満員の車内で揺られること20分、富士宮駅に到着しました。駅前で待っている無料シャトルバスに急いで乗り込み、富士錦酒造に着いたのは10時30分を過ぎたころでした。

さっそく受付に登録ハガキを提出して、試飲用のポリカップをもらい（早く来た人は陶器の猪口がもらえたようです。残念！）試飲の列へ。大吟醸、吟醸、純米酒、しぼりたて原酒、ワイン、リキュールとそれぞれに50人以上の行列ができています。10分ほど待ち、ようやく「しぼりたて原酒」の試飲となりました。フルーティーな口当りで飲みやすく、とても美味しかった。富士錦酒造の発表では、午前中で来場者が1万人を超えたそうです。酒造りの工程の展示と酒蔵を見学してから、また試飲。それから特設の休憩所（田んぼの路肩）に腰をおろして、「静岡おでん」や「富士宮焼きそば」のB級グルメで軽い昼食をとりました。

午後は信長の首塚がある西山本門寺をめざして、「柚野の里ウォーキング」です。4.5キロほどの道程を2時間かけてゆっくり歩きました。道中にはタンポポ、椎茸のホダ木、草を食むホルスタイン、朽ち果てた納屋、清水いっぱいの用水路など、田舎の里山の風景が広がっていました。ほろ酔い気分で会話をしながらの田舎みち歩きは、楽しいものです。この地域には石積みでつくられた棚田もあり、芝川を源流にした用水路の水が田畑を潤しています。

近年、縄文時代の集落跡が発掘され、太古より雄大な富士に抱かれるように人々が暮らしていたことが明らかになってきたそうです。かつては身延道の要衝でもあったことから、古い寺や神社が点在し、道端には今も道祖神の姿が多く見られます。富士山を望む田んぼの風景は美しく雄大で、懐かしさを感じます。

西山本門寺は法華宗興門流の本山で、創建は康永2年（1343年）、日代上人が開いたのが始まりとされています。本能寺の変（1582年）で明智光秀に討ち取られた織田信長の首は、それを「手に入れた者が天下人となる」とまで言われ諸将が探し回りましたが、信長とともに自刃した武将の弟である原志摩守宗安により西山本門寺裏に納められ、首塚が築かれたとされています。秋には、境内で信長公黄葉まつりが開催されます。黒門の周辺は春にはソメイヨシノが満開となり、その調和の美しさから写真スポットとしても有名です。黒門から長い参道を望む景色は素朴で時がとまった感じがします。座頭市や木枯し紋次郎が出てきそう（古いかな？）。とても良いです。その後、新稲子温泉ユートリオで汗を流し、稲子駅から身延線で帰路に着きました。

関係者の皆さま、ありがとうございました。とても楽しい１日でした。

蔵開きに集まった人々

試飲を楽しむ JIA 会員

早春の道をゆっくり歩く

緑と水にも触れながら

鈴木俊史｜俊建築設計事務所

06_アーキテクト.indd　10　13.5.23　4:38:14 PM

「構造設計の役割と可能性」

講師：金箱温春氏

4月24日、総会終了後、金箱温春（かねばこ・よしはる）先生をお招きし、記念講演会が開かれました。

氏は東京工業大学卒業後、1992年金箱構造設計事務所を設立され、2008年に工学博士取得、現在は工学院大学特別専任教授、東京工業大学連携教授を務められています。建築構造設計家として、多くの建築家の建築の構造設計にかかわり、代表作として京都駅ビルをはじめ、表参道ヒルズ、広島球場などが挙げられています。

今回は、いつもの建築家目線からの講演とは異なった、縁の下の力持ち的な、別の視点での話と、JSCA会長としての建築界全体を見渡した問題提起まで、意義深い話を聞くことができました。

表題のテーマのもと、①構造設計の役割として、建築の機能、造形を、安全性とどうバランスをとるか。建築デザインのイメージを、構造デザインとしてどう具現化してゆくか。②構造設計の可能性について、建築家とのかかわりの中で、どう実践していくか。この2点に沿って話は進みました。

①について、熊本の宇土市立網津小学校（設計：坂本一成）ではRC造のボールト屋根の開きを抑えながら、いかに室内の開放性への配慮を考えてデザインの組合せを考えたかということ。沼津駅北拠点施設イベントホール（設計：長谷川逸子）の屋根の架構デザイン決定までの経緯。駿府教会（設計：西沢太良）の木構造トラスの話。盲導犬総合センター（設計：千葉学）では木造とS造を機能、経済性から棟ごとに選択した経緯。ほか昭和記念公園花みどり文化センター（設計：桑原立朗）では屋根の骨組デザインを生かした屋上庭園のランドスケープとの一体感。東京造形大CSプラザ（設計：安田幸一）では、学園の目標であるクリエイティブスパイラルを建築の形状に生かした苦労話。などを例に挙げて、多様化、複雑化する建築に対し、ルールを決めながらひとつひとつ対応していくことが重要であることを話されました。

また耐震補強の例として、浜松サーラ（改修設計：青木茂）、免震建築のフジトランス本社（設計：青木茂）を挙げ、安全性とデザインの両立がどうなされているかなど、構造設計に影響するファクター（規模、機能、コスト、発想、技術進歩、時代の価値観）から普遍性を見つけ出し、個々に実践することにより可能性が見えてくる、とまとめられました。

②の建築家とのかかわりはどうあるべきか、については、一緒になって建築と構造について共同作用の中で考え、問題を解決していくことが必要であること。東日本大震災を顧みて、総合的耐震安全性確保、非耐震構造部材の安全性確保、建築家との役割分担の確認。また、専門家への不信感を生んだ2005の耐震偽装。2011東日本大震災では基準法遵守でも想定以上の被害への説明など、社会への情報提供の必要性。また、よりよい建築の法制度を構築するにはどうすればよいか、にまで言及され、今後の設計者資格はスケジュール、コスト管理まで含めた統括性を加味することが求められるのでは、と話されました。罰則強化だけでは問題解決にはならないであろうことなど、広い視点に立った話を聞くことができました。

講演する金箱氏

講演会場には日ごろ構造設計にかかわっている聴講者も見られ、会場一杯77名の方の参加がありました。静かな落ち着いた講義の中に、ひたむきに構造設計に取り組んできた、先生のまじめな強い意志と人柄を感じ取ることができました。

社会の安全性が求められる中で、建築の構造は重要な要素であることを再認識し、そのために構造設計との共同作業の中で、問題をひとつひとつ解決していく、粘り強い作業の必要性を再確認できた講演会でした。

清　峰芳｜清建築設計事務所

06_アーキテクト.indd　11　13.5.23　4:38:14 PM

力作ぞろいに来訪者400名

第8回JIA愛知美術サロン展が、4月23日（火）～28日（日）まで、名古屋市東区の中電東桜会館で開催されました。会期中の来訪者は約400名と盛況でした。11名の出展者各々の1作品のみ、コメントを付けてご紹介します。

田中英彦｜連空間都市設計事務所

会場風景

「緑の奥の奥」（グアテマラ／ティカル遺跡）

白亜紀末、中米ユカタン半島に大きな隕石が落下した。この隕石の落下が恐竜絶滅の原因と考えられている。それから6千万年、豊かな緑が再生したこの大地にマヤの民が都市を築いた。10世紀末、マヤの民は漆喰をつくるために森を皆伐し、またもや作物の育たない不毛の地となった。それから千年、果てしなく広がる深い森にティカルの神殿が屹立する。

榎戸正浩｜石本建築事務所

アマルフィのお巡りさん

昨春、イタリア旅行の終盤に、岩壁に囲まれた世界遺産で有名なリゾート都市でもあるアマルフィを訪れた。たまたま大聖堂近くでお巡りさんの姿を見かけ、カメラを向けて撮ったショットが面白かったので絵にしてみた。絵のテーマとして風景や建物以外にその土地の風俗にも興味をそそられることが多いので、思い出として絵に残すことが多い。

梶田英夫｜梶田建築設計事務所

大川（おおこ）の滝―屋久島

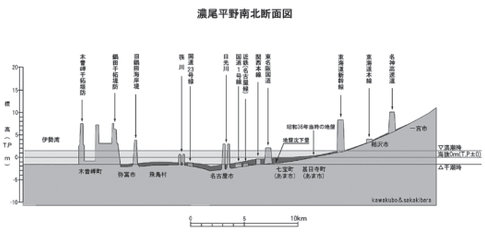
4月中旬、屋久島へスケッチ旅行に出かけた。屋久島といえば1カ月に40日雨が降るといわれるほど雨の多い地域で、宮之浦岳に代表される山岳地帯や白谷雲水峡など亜寒帯から亜熱帯までの豊かな自然を育んでいる。大川の滝は水量の豊富なときは幅30mほどの雄大な滝となるが、晴天が続き二条の美しい滝となって絵心を楽しませてくれた。

神谷義夫｜神谷義夫建築設計事務所

雨上がる 美山の里

晩秋の京都、美山の風景である。折しも時雨が上がり、周囲の山々から霧が昇ってゆく。しっとりと濡れた茅葺きの屋根は何とも美しいものである。柿の実の落ちつくした枯れ木、秋の名残を惜しむかのようなコスモスが雨に洗われて色鮮やかに咲いていた。心に残る懐かしい山里の風景である。

栢本良三｜錦建築設計



濃尾平野断面図

濃尾地震、東南海地震、三河地震、太平洋戦争敗戦、伊勢湾台風と、記録が正確になった明治以降、我々の住む地域と災害について、少しずつ図を制作しています。海水面下の地域が多く、堤防の決壊や排水ポンプの停止で水没することが分かります。東日本の地震と津波も他人事ではない。ハリケーンカトリーナの水没した地域と匹敵する広範囲なのです。

川窪　巧｜川窪設計工房

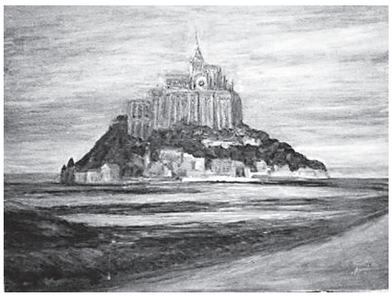
06_アーキテクト.indd 12　13.5.23 4:38:17 PM

ニコライ堂

昨年の秋、曇天の中、「ニコライ堂」の名で親しまれ日本正教会の本山である「東京復活大聖堂」を訪れた。御茶ノ水のこの一角だけは時間が止まったかのようであり、石造・煉瓦造の上からのぞく鐘楼を眺めながらゆったりとした時間を過ごした。

年齢を重ねてきた分、こんな空間が心地よい。

後藤文俊｜アトリエ後藤建築事務所



モン・サン・ミシェル

パリから西にバスで片道約5時間。変遷の歴史は708年から始まります。10世紀に修道士が住み始め、フランス革命からは監獄に使われ、1874年から全面的に修復、1979年世界遺産に指定。対岸と地続きでつくった道が潮流をせき止めたため100年間で砂や汚泥が2mも堆積し、自然に返そうと道を撤去する工事がほぼ完了。潮の上を渡る歩道橋が工事中でした。

田中英彦｜連空間都市設計事務所

休日のヨット・ハーバー

水彩4点、デッサン1点を出展した中で「休日のヨット・ハーバー」が特に評判が良かった。昨年6月末に形原あじさい園を訪れた折、蒲郡のラグーナに立ち寄りこのシーンに出会うことができた。夕方の空のグラデーション、海面の揺らぎ、地平線に展開する帆を畳んだマストの列とヨットにあたる夕日に感動し、思わずスケッチブックに筆を走らせた。

福田一豊｜福田建築事務所

麦わら帽子

愛知県立芸術大学受験のため、河合塾美術研究所の日本画専攻に入塾し、24名の専科学生に交じって毎日通った。8月の暑い日、お昼の講評会で初めて一番よいデッサンだとみんなの前で褒められた。先生から、1ポーズ目から完成を意識すること、このモデルさんはどんな人か、自分でキャラ設定して描いていくとよいと助言され、最高の気分で夢中になって描きました。

山田尊久｜山田尊久建築設計事務所

平等院鳳凰堂

平等院の阿弥陀さん周囲の欄間に点在する雲中供養菩薩を描こうと、昨年夏に何年ぶりかで訪ねた。大雨のあとで池の水は茶色く濁り、水面に映る鳳凰堂は見えなかったが、空は晴天であった。52体の雲中供養菩薩がお堂から飛び出し、歌舞に興じている姿を配する構図はすぐ頭に浮かんだが、取り掛かりが遅く、完成に至らない状態でのサロン展となってしまった。

山田正博｜建築計画工房

かやぶきの里（京都府南丹市美山町）

かやぶきの里は、京都市と福知山市の中間に位置し、山の麓にひっそりと佇んでいます。重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、見事な景観を醸し出しています。あいにくの雨模様でしたが、そのほうが、いっそう屋根のかやぶきの色が際立って何とも言えぬいい雰囲気でした。

美山町に　小雨降る降る
かやぶきの里かな

吉川法人｜
吉川法人＋都市建築デザイン室

06_アーキテクト.indd　13　　13.5.23　4:38:19 PM

風土とともにあるサスティナビリティー

環境建築を巡る旅

4月23日（火）19時より、JIA愛知東海支部会議室で、宇野勇治氏（愛知産業大学造形学部建築学科 准教授）による海外建築研修の講演会が開催されました。

宇野氏は2012年9月、エコバウツアーに参加、ドイツ・ミュンヘン、オーストリア、スイスを巡る旅をされています。先進的な新しい取り組みがされた環境に配慮したエコ建築や、オーストリアの建築家ヘルマン・カウフマン氏のモダンな木質建築の現地写真などを多く交え、「環境建築」をテーマとした報告会でした。

ドイツは、日本との気温比較で、東北から北海道あたりに位置し、暖房のエネルギー消費量が多いため、環境・断熱を含めた合理化を進めることでエネルギー消費を少なくしており、そうしたことが参考になったそうです。

建物の解説では、外壁が大型パネルで構成されたドイツの木造建築物の紹介がありました。現地でパネルを組み立て、構造は厚板で支持。外壁は約3×9m、厚さは約30㎝の大型パネルでつくられ、壁の中に高性能なサッシ、高断熱で分厚い断熱材、電気配線といったスペースを組み込んでいて、日本とドイツの建物のつくり方の違いに驚かれたとのこと。

パネル化した外壁材料を組み合わせた建物として、オーストリアのルーデッシュにある村役場兼レストランの「パッシブハウス」を挙げられました。

ビル建物の紹介では、構造の工法で、RC材料と木質材料を使用した「ハイブリッド化」を解説されたのが印象的でした。建物の構造で中心となるコア部分はRC造で、ほかは木造。桁はRCで、梁は集成材。法的や延焼上で必要な重要部分のみRCを残し、木とRCを併用。使えるところはぎりぎりまで木を使用する。木材を多く使用するのも廃棄後にゴミを出さない考えで、使用する材料に理解があり、地域で賄えるようなシステムで構成されているようです。地域環境に対して配慮しているとのことで、まさに「地産地消」および「地域ハイブリッド」。

また、建物の断熱材料として使用する「セルロースファイバー」についても同様です。ロックウール、グラスウールといった断熱材が主流の日本に対し、ドイツでは、木質系断熱材である「セルロースファイバー」を多く採用します。これも木質系材料を採用することで、材料の有害性、住む人や施工作業者の健康、また材料の廃棄処分と地域環境の面で、多面的に評価しているからだそうです。

さらに、建物の熱環境を考える上で窓の日射遮蔽が重要だとも。ドイツの豊富な外付ブラインドやシャッターは参考になるとのことでした。

講演のまとめとして、ドイツは伝統の文脈の中で環境建築をつくってきたのに対し、日本はリサイクルができれば良いという考えがあり、近年、冷暖房負荷に特化している。ドイツは廃棄後にゴミを出さない考えで、素材に対して理解があり、さらには建物の構造材の木質化や、環境・健康に対しても配慮があるとのこと。今後日本は、建物の温熱環境を機械で制御する面と、伝統的な庇・軒で対応する面の両方を併用しながら「エコ化」を考える必要がある。ドイツの伝統を参考にし、日本の風土・気候・景観を考慮し、どのように「エコ建築」を築いていくかが今後の課題だと締め括られました。

ものづくりする上で、内面からの「高気密・高断熱」に、外面からの「環境」を加え、さらにはその基となる「素材」についても考えさせられた講演会でした。

小坂井孝｜野口建築事務所所

左右の写真とも会場の様子。中央が宇野勇治氏

06_アーキテクト.indd 14　13.5.23 4:38:20 PM

来春会館・新博物館の構想を聞く

4月20日（土）総会に引き続き、記念講演会が開催された。三重県環境生活部新博物館整備推進プロジェクトチーム 企画班班長 三重県博物館主幹 天野秀昭氏を講師に迎え、今回、新しく三重県に建設される新博物館について講演をいただいた。

まず、現在の博物館は三重県庁より少し北西に下った津偕楽公園の中にある。建物外観は、明治40年にこの場所で開催された博覧会でのパビリオンの形状を模している。昭和26年に博物館法が制定され、全国的に博物館が目新しい時代に、東海地方初の総合博物館として昭和28年に建設された。しかし、早くつくりすぎてしまったため、スペックが間に合わなくなり、ほかの博物館に遅れをとってしまったとのこと。収蔵物は、28万点ある。化石、昆虫の標本、古文書、浮世絵、民族資料。総合博物館というのは、とにかくなんでもありだそうだ。

左下の写真は現在正面玄関に設置されている案内看板である。休館中の張り紙の左に入館料が記載されている。40円。破格の安さであるが、内容もそれなり、かつ中途半端な金額、と氏は恐縮する。しかし、本来、博物館法では社会教育施設であり無料を基本とすることになっている。受益者負担として入館料を徴収するか否かは館の考えに委ねられるとのこと。記録として、この看板も残そうかと考えているらしい。

恥ずかしながら、私がこの博物館に行ったのは、小学生のときの校外学習でしかない。40年以上前なので展示物の内容など全く覚えていない。だだ、その室内だけ時間が止まっているように感じた記憶が残っている。そんな状況であるから、博物館の詳細をお聞きするのは、新鮮であった。

現博物館の展示室は老朽化により平成19年10月に閉鎖、新博物館の構想が立ち上がった。途中、知事が交代になり、計画中止の動きも見られたが、平成21年に概略設計が完了、平成23年に着工した。新博物館の建設地は、旧館から西に約1km、三重県総合文化センターの前に位置する。延べ面積10,779㎡。免震構造で、40万点の資料を収蔵し、正職員24名、学芸員17名で稼働させる。

これまでの博物館は、展示を見にきたり、行事に参加したりなど目的を持って来館する人を念頭に据えてきた。これからは、地域の活動とかかわりを持った博物館を目指すとのこと。誰もが訪れることができるよう、館の中心に学習交流スペースを設け、グループの集まりに利用したりできる。あるいは用事がなくても来館すると、総合博物館なのでいろいろな分野の展示を見ることができる。ちょっと何かを見て興味がわき、関心がどんどん広がっていくことを期待していると述べられた。

工事中、敷地内で350万年前の地層が発見された。ワニの歯の化石なども出てきた。子どもたちに参加を呼びかけ、一般の人たちと一緒に調査した。これらも博物館事業の一貫ととらえている。これまでもそのような趣旨で開館していたが、なかなか知っていただける機会がない。新館では、それを今まで以上にオープンにしていきたい。

常設展示の面積は、800㎡。滋賀県立琵琶湖博物館で常設面積が3,000㎡であるからその広さが十分でないのは推測できる。また、三重県のテーマは何かと考えたときに、伊勢、志摩、伊賀、東紀州という4つの文化圏に分けられる。それぞれの地域文化には地域性があり、滋賀県で考えられる琵琶湖という大きなくくりでは三重県は語れない。テーマが絞れない中での800㎡なので、併設する企画展示で対応していく。また、目玉の一つとして、ほかに類を見ない高さ6m、幅13mの展示ケースも見てほしい。天野氏は以上のように語られた。

今、新博物館は竣工を迎え、三重県の管理下に移ったばかりである。平成26年春に開館を予定しており、これから1年を掛けて常設展示などの準備を進めていくとのこと。1年後の開館日が待ち遠しくなった。

現在の博物館の入口にある案内板

新博物館（2013年4月20日現在）

西出　章｜森永建築設計事務所

06_アーキテクト.indd 15　13.5.23 4:38:20 PM

震災復興シンポジウム2013「みやぎボイス」を振り返って

住民と専門家が同じテーブルで議論
参加者の身体に刻まれた「時空間の共有」

JIA宮城　SOY source 建築設計事務所　櫻井 一弥

2011年3月11日の東日本大震災から丸2年が経過した。賑わいの戻った仙台市街地にいると、震災直後の停電・断水、食料品を求めての長蛇の列など、まるで夢の中の出来事だったように思う。停電が解消してからは、ほとんど毎日のように集まり、各地の状況を報告し合ったり、我々建築家がやるべきことを議論したり、農業や漁業の専門家を招いて勉強会をしたりと、密度の濃い時空間をJIAメンバーと共有した。それらは今、どのような形で結実したのだろうか？　単なる思い出を越える何かを生み出したのだろうか？　ほとんど後先も考えず走り続けた2年間を、外部の意見も参考にして冷静に見つめ直す必要がある。

2013年4月6日（土）と4月7日（日）に開催した、JIA東北支部主催のシンポジウムは、そうした問題意識の下、一方的に我々の活動を市民に向けて紹介するようなシンポジウムではなく、地域住民や各方面の専門家を巻き込み、設定されたテーマについて議論し合うラウンドテーブルの形式を採用したものである。

一日目は、JIA宮城のメンバーが震災直後より深くかかわり、高台移転の計画策定に向けたお手伝いをしてきた石巻市北上地区の住民を中心に、「なりわい」「すまい」「医療・福祉」というテーマにふさわしい専門家を招き、三つのテーブルに分かれて議論が行われた。それぞれの議論については、東北支部から詳細なレポートが出される予定であるためここでは詳述を省くが、印象に残った話だけをお伝えしたい。

私は「医療・福祉」のテーブルでずっと議論のゆくえを見守っていた。高齢化率が非常に高く、医療機関や福祉施設などほとんどなく、端から見ると見捨てられたような漁村である。しかし生涯現役で漁師などを続けるこの町の人々は、総じてとても元気、となり近所が普段から声を掛け合って異変にはすぐ気づく、また死ぬときは医者にかからずぽっくりと死んでいくそうなのである。招かれていた福祉の専門家からは、これこそ今後日本が直面する事態であり、最先端の福祉のあり方であろうとの指摘があった。福祉というのは与えられるもので、金のかかるもの、という都市部の概念を根底から覆すのである。

上｜医療・福祉の議論の成果
中｜「すまい」をテーマにしたテーブル
下｜「協働」をテーマにしたテーブル

二日目は、主に各分野の専門家を中心に、「すまい」「まちづくり」「協働」という三つのテーマの下、テーブルに分かれて議論した。自治体の職員、大学関係者、各種業界の方など、震災復興の最前線で活躍している方々を招き、各地で抱える課題や全般的なシステムの問題など、幅広い情報交換をしてもらった。「協働」のテーブルでの議論で印象的だったのは、住民に近いところで実質的な活動をする専門家はボランティアである一方、国から多額の予算をもらって作業をする専門家は住民の方を向いていない、というミスマッチがいまだに解消されないということだ。

今回のシンポジウムの成果があったのかなかったのか、おそらくすぐには結果が出ないと思う。ラウンドテーブルの参加者が多かったため、議論が深まらなかったという批判もあるし、このシンポジウムで一定の結論が出ることを期待していた人から見れば、ただ言い合っているだけのように見えたかもしれない。冒頭に述べた、震災直後の活動の成果がこのシンポジウムに十全に反映されたような気もしない。

しかし、我々が震災後より2年間の活動を通して、その有効性を強く感じた「時空間の共有」という資産は、確実に参加者の身体に刻まれたことだろう。TwitterでもFacebookでも全く伝わらない、「場の強度」の経験は、単に知り合いになれた、ということ以上の何かを今後生み出してくれると確信している。

06_アーキテクト.indd 16　13.5.23 4:38:22 PM

「マッキントッシュの椅子とインテリア」

高橋敏郎さん（JIA会員）の講演を聞いて

竹中アシュ｜竹中設計事務所アシュ

会場の様子

高橋敏郎さん

4月19日、中部インテリアデザイン連絡会の主催で行われた高橋敏郎先生（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部（都市環境デザインコース）教授）の講演会「マッキントッシュの椅子とインテリア」に参加してきました。場所は名古屋の栄ガスビル。埋め尽くされた会場はその過半が女性であり、先生の人気ぶりがうかがえました。先生は、2011年度に学位論文「C.R.マッキントッシュのインテリアデザインに関する研究」を発表され、博士（工学）を取得されていらっしゃいます。今回の講演はそれを基に行われたもので、椅子、家具、インテリア、そして暖炉と四つの面からお話を進められました。

少し意外だったのですが、マッキントッシュのインテリアについて建築学会内で発表された論文は今までに一つしかなかったそうです。椅子や家具について語られたものはなおさら少ないとのこと。建築活動の一部としてインテリアが語られることが多く、内面やディテール、そしてその独特な装飾からはとらえられることが少なかったようです。貴重な機会が設けられたものでした。

まず椅子についてのお話です。一つ一つその時代背景、工法、そしてマッキントッシュの生涯を交えて語っていかれます。その内容もさることながら聞いていてすばらしいと思ったのは、ただ研究に没頭されるだけでなく、実際に彼の椅子をつくり、その真実に迫るところでした。ご自身の研究室で学生さんを交えて作製を進められるようです。ときには遠くグラスゴーに赴いて現地の職人さんに話を聞き、またあるときには美術館などで展示されているものを実測されたりもして行動第一であることがうかがえます。実測に没頭しすぎて守衛さんにとがめられてしまうこともあったとか…。椅子の背板のカーブは曲げ木ではなく削り出しであることや、接合部はほとんどダボが使われていて実際は壊れやすいものであるということも今回初めて知りました。これも先生が徹底して研究されたゆえに導き出された真実なのだと思います。また、このような実測も、そもそもは学生さんからの提案だったそうで、幅広く話を聞き入れられる先生のお姿に感銘を受けたものでした。

マッキントッシュが活躍したのは十数年で、長く見ても20年。その間に珠玉の作品をつくり出したわけですが、ハイバックチェアがつくられていたのはその中でもほんの短い期間だったのですね。あの背の高さは空間の仕切りにもなると聞いて、なるほどと思いました。コートをかけてしまうと向こう側が見えないわけです。北国らしい知恵でもあるなと思いました。その頃のインテリア空間にも同様の傾向が見られていたようで、柱や手すりによって空間が分節化されるなど、今の建築にも応用ができそうです。ほかにも壁面のステンシルや色ガラスによる装飾、正方形を多用する傾向など、内部装飾の多用な組み合わせと分節から空間を展開してきたことが理解できました。

ところで、先生がつくられた椅子はどこかに展示されているのでしょうか。実はまだ研究室にお伺いしたことがないのです。いつかぜひ拝見したいと思っています。

ヴァルンドルファー・ミュージックサロンの椅子（1902）

ヒルハウスのラダーバックチェアとスツール（1903）

ハウスヒル、ドゥローイングルームのアームチェア（1904）

ハウスヒル、ホワイトベッドルームのローバックチェア

キングズバラガーデン14番のアームチェア（1901）

※いすの写真は高橋敏郎さん提供

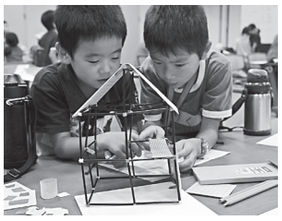
06_アーキテクト.indd 17 13.5.23 4:38:23 PM

まち大好き、建築大好き

「だがねランド」の子どもたち

鈴木賢一｜名古屋市立大学

だがねランドの町並みを検討中



実物制作に向けて模型で確認

夏休みに出現、消滅する架空のまち

４月に研究室の新メンバーが加わり「だがねランド2013」の企画会議がスタートした。「だがねランド」は、夏休みの約１カ月、名古屋都市センターの展示フロア600㎡で開催される子どもたちがつくるまちのことだ。会期前半に「まちを考え、つくりあげ」、後半「まちで遊び、手直しする」。最終日には、すべて解体し更地にもどす。

2006年に、子どもたちのまちへの興味関心を引き出そうとスタートした。実際に入って遊べる大きさのまちをつくりあげる体験型学習プログラムが、参加する子どもたちの心をわしづかみにした。今年は８回目。毎年、延べ2,000人前後の子どもたちが楽しむ。心待ちの熱烈リピーターもおり、人数限定のワークショップには、まちづくり大好き、建築大好きの子どもたちが集ってくる。

本格的体験プログラムで学ぶまち

１カ月の期間内に、さまざまなワークショップを仕込む。都市センター企画課の近藤亜弓さん率いる担当チームと学生たちとの協同作業を積み上げ、バージョンアップしてきた。まずは、都市計画ワークショップ。10名弱の子どもたちが、まちのマスタープランをつくりあげる。名古屋大学大学院環境学研究科の片木篤教授の優しくも厳しい指導により、機能、動線、景観が本格的に議論される。次に建築ワークショップ。マスタープランにしたがって、個々の建築物が計画され段ボールなどで施工される。だがねオールスターズと呼ばれる大学生が相談役となる。2009年からは、シンボリックな公共建築を木造で制作している。建築家みかんぐみの曽我部昌史教授（神奈川大学）が、子どもたちのつぶやきに耳を傾けながら指導する。これまで、劇場、学校、図書館、博物館をつくり上げてきた。頼りになるのは、岐阜県森林文化アカデミーの学生さんたち。研究室出身の阿部君が進学したことでつながりができた。のこぎり、金づち、電動ドリルの使い方をアドバイスしてくれ、子どもたちは大工さん気分を味わう。今年は彼が開発した軸組ユニットが新規導入される。

子どもも大人ものめり込む熱いまち

こうしてでき上がったまちには通貨「ダガネ」が流通し、子どもたちは仕事をし、稼いだお金でモノを買う。町長選挙や議会も行われ、まちの運営も子ども主体。ユニークな資格試験が人気を博す。建築の知識を筆記試験で問う「はかせ」と、道具の使い方や仕事のうまさを実技で試す「たくみ」試験。両者を３級以上修得すると、アーキテクちゅう（マスコットキャラクターの「だがネズミ」とアーキテクトをかけた）の称号を得られる。指導するのは大学生。夏休みはメンバー総出で参加するため、それが研究室選択の決め手となる。表向きは「子どものつくるまち」であるが、「大学生が子どもに学ぶまち」でもある。

この活動は、2009年に内閣府認証NPO主催の第３回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）、2011年に日本建築家協会のゴールデンキューブ賞（特別賞）、日本建築学会の教育賞（教育貢献）を受賞し、企画運営する側の責任とやる気をあらためて引き出した。もうやめるわけにはいかない。次の秘策をあたためており、さらなるバージョンアップを狙っている。

木造で大規模な公共建築も建設する

完成したまちのオープニング

最終日にはすっかり解体する

06_アーキテクト.indd 18 13.5.23 4:38:24 PM

東海4県につくられた住宅対象

第１回 JIA 東海住宅建築賞 2013

６月 15 日公開審査（第１次審査）

愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の東海4県で最近3年以内につくられた住宅（専用住宅・集合住宅など）を対象に、各自が定めたテーマに対して特に秀でた住宅の施主、設計者、施工者に贈る新設の賞。

●日時・会場 6月15日（土） 名古屋大学ES総合館ESホール
13:00 ～15:00 応募者によるプレゼンテーション および一次選考
15:00 ～15:30 休憩、審査方法ミーティング
15:30 ～17:00 最終選考
17:00 ～18:00 懇談会（審査員、応募者、主催者）
18:30 ～20:30 懇親会（審査員、入賞者、主催者）
※第2次審査は7月に現地審査、同月末入賞発表予定。8月表彰式予定。

●審 査 員 横河健（日本大学教授・横河設計工房）、伊藤恭行（名古屋市立大学教授・CA n（C+A名古屋））、藤原徹平（横浜国立大学大学院准教授・フジワラボ）

●表 彰 大賞1作品、優秀賞2 ～3、奨励賞2 ～3。大賞と優秀賞に記念品。

●問 合 せ JIA東海支部事務局（TEL：052-263-4636）

木、環境、エネルギーを学ぶ

木の家スクール名古屋 2013

受講者募集

「木の家スクール名古屋2013」が6月1日開講。日本の地域材を活用した家づくりなどを学ぶ講座です。定員は50名（申込先着順）で受講料 15,000円（資料代含む）。申込みは「木の家スクール名古屋」で検索、「受講申込」からお願いします。（宇野勇治／JIA愛知）

●講 義 内 容（いずれも 講義は13:30 ～15:10と15:20 ～17:00）

○第1回：6/1(土)
辻 充孝（岐阜県立森林文化アカデミー講師） 第1部「省エネ法とはなんだ？ 1次エネルギーを計算してみよう」
第2部「結露はなぜ起きる？ 仕組みがわかれば怖くない」

○第2回：7/27(土)
舩岡正光（三重大学大学院生物資源学研究科教授）「分子に刻まれた時を読む 森林からはじまる新しい持続的社会を目指して 」
山下保博（アトリエ・天工人主宰、建築家）「建築家のスケール」

○第3回：9/28(土)
池辺潤一（『藤野電力』発起人、本業：自然住宅の設計士）「『藤野電力』市民がつくるエネルギー」
バルテンシュタイン（工学博士、エコライフラボ事業統括責任者）「自然エネルギーで自己完結する家を作ろう」

○第4回：10/12(土) フィールドワーク ※詳細は別途連絡
滋賀県湖東地域の森とkikitoの取り組みを訪ねる
田中一則（湖東地域材循環システム協議会＆一般社団法人kikito事務局長）ほか「山の現状、森林を循環できる仕組みづくり」

○第5回：11/10(日)
安井 昇（桜設計集団主宰、建築家、木造防火研究者）「地震に強く、火にも強く、環境に優しい木造住宅の実践例」
安藤邦廣（筑波大学芸術学系教授、建築家）「板倉の技術開発と震災の復興」

●会 場 名古屋工業大学（JR 中央線・地下鉄鶴舞駅下車徒歩約8分）

建築家フォーラム・LIXIL共催

「2012 年度 JIA 新人賞 受賞作を語る」

保坂猛氏と前田圭介氏を招いて

建築家フォーラム（代表幹事：古谷誠章、幹事：今川憲英・国広ジョージ・手塚貴晴・安田幸一の各氏で運営）とJIA協力会員LIXIL共催の催し。要予約。定員80名。

●日 時 6月11日（火） 15:20 ～20:30
＜プレイベント＞
15:20 ～16:00 「INAXライブミュージアム 日本のテラコッタ建築の保存と公開」 講師：後藤泰男 （㈱LIXIL広報部 文化企画グループ／学芸員）
16:00 ～17:00 「INAXライブミュージアム見学会」 案内：日置拓人（INAXライブミュージアム内施設設計者／南の島工房）＋INAXライブミュージアムスタッフ
＜メインイベント＞
17:30 ～19:30 「2012年度JIA新人賞 受賞作を語る」出演：保坂猛（保坂猛建築都市設計事務所代表）・前田圭介（UID）・古谷誠章（建築家・早稲田大学教授）
19:30 ～20:30 懇親会

●会 場 INAXライブミュージアム（愛知県常滑市奥栄町1-130 TEL：0569-34-8282）

●参 加 費（当日） 一般2,000円、学生・院生1,000円、建築家フォーラム会員無料、同賛助会員（3名まで）無料

●問 合 せ 建築家フォーラム事務局／小熊（おぐま）（TEL 03-6273-3427 FAX 03-6273-3539 E-mail：oguma@kentikuka-forum.net）

06_アーキテクト.indd 19 13.5.23 4:38:24 PM

保存情報　第139回　JIA愛知保存研究会

データ発掘（お気に入りの歴史的環境調査）　熊谷家

■発掘者のコメント

由来／熊谷家はかつて造り酒屋を営み、また山間部の庄屋を務めて現在二十代目を継いでいる古い家柄です。熊谷氏は家伝によると、初代熊谷玄潘が信濃国より土着して黒川を開いたといわれています。これを知る資料は皆無ですが、この地方で熊谷姓を名乗る一党の中にあって、代々庄屋を務めていたことや、格式ある屋敷構えや墓石の宝筐印塔などがあることからも、この地方を取り仕切っていた家柄だったとみてよいでしょう。熊谷氏宅は天竜川支流、大入川の中流の山間に位置しています。この場所は遠江の佐久間から大入川沿いに上がって津具、根羽へと、金越から新野峠に向かう中馬街道の脇道としての重要な道番所でもありました。

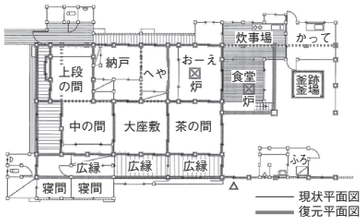
三河山間部の代表的民家建築／当住宅の建築年代を推測資料としては、寛保4（1744）年以降の祈祷札が残されています。また屋敷の間取りや構造形式がこの地方に例がなく、むしろ静岡県浜松地方に見られる武家住宅の形式と類似することから、建造年代は18世紀前半と推測されています。屋敷構えは母屋を東向きに構え、門は屋敷中央の東に長屋門がありましたが、現在は棟門となっています。門の左に新倉・穀倉土蔵があり、母屋の北に納屋倉庫があります。醸造業を営んでいた時代には多くの付属室を配していたと思われます。建造当初の建築様式や生活を知るに十分な保存が見られ、三河山間部における代表的な価値ある民家です。

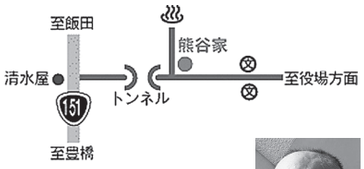
格式の高さを示す古六間取り／建造当初の間取り形式は、古六間取りの構えに広縁を回し、庭側に板張りのだいどころを張り出していたと見られます。柱間の寸法は7尺5寸（225cm）を単位としており、1間ごとに柱を入れた古い形式の建物です。古四間取りや古六間取りは一般の民家には見られず、格式ある武家住宅にみられる間取りであり、18世紀中期以前の建築ながら六間取りを採用していることからも、熊谷家の格式の高さがうかがえます。

道路より見る

正面

所在地：愛知県北設楽郡豊根村上黒川字老平12
形式：入母屋茅葺き、酒屋（元庄屋・造酒屋）
規模：桁行13間半・梁間7間
年代：18世紀初期
国指定重要文化財
「建第1919号重要文化財」





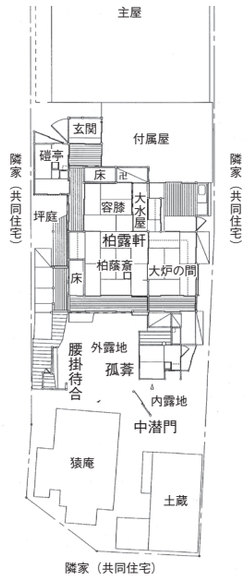
※平面図、マップとも、とよね村HPより

冨田正行｜エム・プロダクツ

登録有形文化財　神谷家住宅茶室（孤葬・柏露軒・腰掛待合・中潜門）

中潜りから見た孤葬

孤葬内部



■紹介者コメント

名古屋大学建築学科卒業で、同期の神谷昇司氏（人間環境大学教授）が茶室研究の専門家である理由の一つは、代々続く名古屋裏千家の出身であることによる。学生時代から周辺の先生・学生たちを自邸に招いて茶道のたしなみを啓蒙していた。私も何度か茶室に案内され薫陶を受けていたにもかかわらず、郷土の文化的価値に気付かなかった。

三河武士の流れを汲む神谷家が江戸期に大須で紙問屋を興し、明治維新後に茶道師範を務めた清寿院院主の村瀬家と姻戚となり、当地に居を構えた。戦災にも遭わず今日では周辺を高層ビルに囲まれ、外からの望見は困難である。孤葬（こあん）は西区幅下の日比野邸から、柏露軒（はくろけん）は中区大須の村瀬玄中邸からの移築であり、腰掛待合と中潜門（なかくぐりもん）は大正期に建設されたが、その後の曳家の際、東大寺や熱田神宮の古材が用いられている。正真正銘の数寄屋造りであり、芸どころ名古屋の証として誇りえる建築に間違いない。このような文化そのものを建築空間も含めて、中心市街地の中で末永く遺していくための、保存と継承・発展のための施策と法的整備を急がねばならない。

所在地：名古屋市中区新栄2-10-4
構造・建築面積・年代・登録番号：
孤葬／木造平屋建て、銅板葺き、10.2㎡、
江戸時代後期・明治44（1911）年移築　23-0342
柏露軒／木造平屋建て、桟瓦葺き、77.7㎡、
天保5（1834）年・明治44（1911）念移築　23-0341
腰掛待合／木造平屋建て、銅板葺き、1.3㎡、
大正12（1923）年・平成7（1995）年曳家　23-0343
中潜門／木造平屋建て、桟瓦葺き、間口1.7m、
大正末期から昭和初期・平成7（1995）年曳家　23-0344

谷口　元｜名古屋大学

06_アーキテクト.indd　20　13.5.23　4:38:24 PM

2013年度決算概算や新会員制度の課題を協議

本部理事・東海支部長　鳥居　久保

理事懇談会が、2013年4月12日（金）13時30分から16時30分まで、建築家会館＋WEB会議にて行われた。出席者は会長以下、理事19名（4名欠席）、監事2名、事務局2名。会議に先立って筒井専務より「理事懇談会」の機能、位置づけなどについて、確認があった。

・決議や承認は理事懇談会では行えない。
・案件に対する議論や意見交換の場に特化する。
・会議体ではないので委任の必要はない（理事会ではないので定足数を満たすという概念はなし）。
・理事会ではないので監事の出席の義務なし。
・入退会、後援名義承認は理事会の場のみ。ただし後援名義承認は条件付きで会長専任事項とする。

＜芦原会長あいさつ＞

公益社団法人になっての初の理事懇談会。形は整ったので、あとは中身の番だ。理事会と理事懇談会を明確に区別し、機能と棲み分けをはっきりさせてスムーズな審議、検討を進めたい。また時間厳守を切に願う。

【報告事項】

1. 2013年度決算概算報告について

本部一般会計の概算報告

会費収入は2012年度予算比98.6％。会費収入は会員増強に加え滞納、未納を積極的に回収した。特別損失は、1,947万。ベルコリーヌの件で、弁護士費用や特別委員会の経費を今年度の特別損失として計上。繰入金収入は3つの特別会計（収益事業、国際交流基金、建築家資格制度）を解消して繰入れた。今後は国際交流、資格制度、災害対策ファンドを積立金として処理していきたい。支出においては管理費の人件費に2名の退職金分が入っている。未納会員の会費納入において、速やかな処理をしてもらいたい。

【協議事項】

1. 新・会員制度の運用に関する課題について

・終身会員制度廃止に伴い、これまでの貢献度に対する感謝の意を表して、感謝状贈呈案が出ている。
・新法人下では、会費を払わない正会員はいなくなるので、旧来の終身正会員の会費免除は方針に合わない。新法人移行後は正会員、フェロー、シニアの選択が残される。
・準会員でジュニア、学生会員においてゼネコンは排除されている。正会員の資格の厳格化は良いが、会員全体として一緒にやっていくという意味においてはジュニア会員、学生会員の今の身分が何であるか、が果たして問題になるか。今後議論の必要性あり。
・休会は内規の中で存続。休会理由については、「出産・育児」「傷病」「介護」「海外転勤」は認められるが、「経済的理由」は除く方向。今後総務委員会で内規を制定する予定。また休会届はあくまで会員の希望で休会することが確認できるようにする。
・会費未納でも退会はできるが、債務は残ることを会員には認識してもらっての退会届とする。

2. 委員会体制再編の進捗状況と方針について

・本部のミッションを明確にして、それを果たすために今回の委員会再生がある。本部のミッションを整理すると、社会貢献、組織管理、会員サービスに集約され、その下で委員会が活動する。
・15委員会のヒヤリング終了。現状の23委員会を13委員会に整理、統合する大きな枠組みづくりをしている。そのためには旧委員会はリセットすることが前提となる。
・委員会を横断できるネットワーク型の委員会構想であり、本部、支部、地域会間において境のない、組織で一本化された委員会のイメージとなる。
・現状のような本部という意識や概念を払拭して、JIA全体に委員会が行き渡るイメージである。
・各地域間をつないでネットワークしている状態をイメージしやすいのは、災害や環境や建築相談や保存再生委員会などであり、支部、地域会間での連携が自立して委員会となっていく発想を持つべき。
・今後、大枠でのこの委員会構成を基本に進めていくことを確認した。

06_アーキテクト.indd 21　13.5.23 4:38:25 PM

東海支部役員会報告

公益社団法人に移行し、第1回目の役員会となった。4～6月には各地域会、支部、本部の総会が行われ、新生JIAがいよいよ活動を開始となる。旧制度より新制度への切り替えにはまだ多少の不安は残るものの実践に移すしかなく、動きながら考えるしかない。とはいってもJIAの中身には大きな変化が生じたわけでもない。それより公益として歩みだしたJIAとそれを支持した私たち個々の気持ちの上で、その趣旨に少しずつ移行してゆくことが大切なことなのだろう。

江川静男｜ヴァイスプランニング

日　時：2013年4月19日（金）16:00～19:00
場　所：昭和ビル5階　JIA東海支部会議室
出席者：支部長、本部理事、幹事11名、監査2名、オブザーバー3名

1. 支部長挨拶

2. 報告事項

(1) 本部報告

①理事懇談会（4/12）（鳥居）　※詳細は「理事会レポート」参照

②総務委員会（4/11）（服部）

【審議事項】

入退会審査：入会34名、退会26名うち1名死亡退会、休会７名承認。2012年で100名減少、しかし承認済未入会者は48名。資格喪失者55名。入会申込書：理事会で指摘を受けたものを討議する。

【協議事項】

・各支部で予定する「会費額」は6月の通常総会議案になる予定。
・会員増強および新会員対応WG報告：6月まで引き続き活動する。
・首都直下型地震発生時の本部機能のリスク管理：来年度WGをつくる。

【報告事項】

・2013年度委員交代について：予算管理、規約類制定、会員管理など3つに分割予定。

③広報委員会・全国支部広報委員長会議　第1回（4/16）（江川）（今回の会議形式は自由討論式）

・本部メルマガ：本部で管理している内容、本部からの伝達内容を中心に行う。
・広報委員会ミッションについて　①内外に対する広報戦略の検討・策定　②機関誌の発刊、HPの整備、メディア対応　③出版物の管理、JIAアーカイブスの管理
・委員会体制：本部広報委員会の開催は今までどおり毎月行い、支部広報委員長会議のみ2カ月に1回1時間のみとする。
・プロポーザル小冊子関連：若手建築家向けコンペ「公衆トイレ計画」などの実施を全国自治体にアプローチするなど検討。

④建築家資格制度委員会

・4/1登録建築家新聞記事（3/29芦原会長記者会見記事）について
・3/21第120回建築家資格制度委員会議事録
・士会の専攻建築士認定評議会、各地域での動きについての意見交流。
・3/29本部建築家認定評議会議事録について

⑤CPD評議会（3/26）（塚本）

・プロバイダー申請について：1社申請、了承。
・プログラム申請について：31件について16件認定、15件修正指示。
・委員会再編について：6/28総会にて切り替え。新しい人材の参加が必要、次回協議。

(2) 支部報告

①会員増強委員会（4/19）（石田）

・3月末時点、旧制度会員要件で6名の入会。前回までの入会を含め11名となった。
・準会員制度ができるまで、勧誘パンフレットを作る必要があるのではないか。
・今後も新入会員勧誘をお願いします。

②CPD評議会（4/19）（塚本）

・プログラム申請31件のうち29件認定、2件修正指示。

(3) 各地域会からの報告　省略

3. その他

①NPO法人 建築家教育推進機構より「願い書」（水野）

・「NPO法人」と日建学院の共催「定期講習会」をJIA関係者が受講すると受講料の25%がNPO法人の収入になる。

議事

1. 審議事項

①入会申込み　「上西真哉」「八木紀彰」「石川正子」「大橋康孝」「川本敦史」「恒川和久」「横関　浩」：承認

②第30回東海支部設計競技　予算案（水野）
事業計画書を後日提出し承認を得ることで：承認

③後援名義使用のお願い「木材利用促進セミナー2013」（次世代木質建築協議会）：承認

2. 協議事項

①2013年度通常総会議案書（水野）

3. その他

[監査所見]

17日監査をして、財政再建立て直しが必要。事業ではせめて収支結果が±0になるようにお願いします。

・JIAリーフレットの中身が地域会の求めているものか見たい。
・本部事務手続きが煩雑になっているようだが、改善を検討いただきたい。
・今後、準会員制度はうまく立ち上げていただきたい。

06_アーキテクト.indd 22　13.5.23 4:38:25 PM

東海とっておきガイド㊺ | 三重編 |

滝井利彰（一級建築士事務所タック設計室）

鍵屋の辻の小さな茶店

日本三大仇討ちの一つとされる決闘の場「鍵屋の辻」は伊賀上野の城下の西の入口にあたる。歌舞伎や浄瑠璃で演じられ、ときに映画やテレビドラマでも取り上げられるのだが、もしかしたら地元でも若い人はこの仇討ちのことを知らないかもしれない。仇討ちは現代ではご法度、私は学校で教わった記憶がない。ちなみにあと二つは、曽我兄弟の仇討ちと赤穂浪士の討ち入りである。「鍵屋の辻」の決闘のいきさつは別の機会に譲るとして、この場所は現在史跡公園として整備され、その木立の間に仇討ちの主役、渡辺数馬の名前にちなんだ小さな茶店「数馬茶屋」がある。数奇屋造りの建物は昭和4年に田中善助によって再興されたもので、転用材の大黒柱と竹組の天井は興味深い。

数馬茶屋：伊賀市小田町1322　鍵屋の辻史跡公園内　TEL：0595-23-9103

おかみさんお薦め

気持ちいい陽気に誘われて久しぶりに訪ねた「数馬茶屋」。先客がお見えで、「どこそこの誰さんです」とおかみさんが初対面の私に紹介してくれた。「今日はぬくたいから、冷たい“わらびもち”はどうですか」との薦めに先客が「それ貰います」。思わず「私も一緒で」とつられてしまう。お薄と一緒に出されたそれは、挽きたての黄粉がたっぷりかかってちょうどいい歯ごたえがあり、おいしくいただいた。もう少し腹持ちのいいのは「数馬そば」。分厚い油揚げと力餅に山菜がトッピング。お昼時にぴったり。先客との別れ際、「この大黒柱、ほら、ここにほぞ穴がありますよ。どこかのお家から持ってきた証でしょ。天井のこの竹、いいあめ色してますね。きっと欲しがる人がいますよ」と言葉を交わして店を出た。

数馬茶屋の「わらびもち」（左）と「数馬そば」

地域会だより

＜静岡＞

4/24　通常総会・記念講演・懇親会
　　記念講演会講師：金箱　温春「構造設計の役割と可能性」
　　90名程度の申し込みがあった。（※詳細はP11掲載）
5/13　静岡地域会拡大役員会および災害対策委員会報告会の開催
　　4/6～7みやぎボイス「震災復興シンポジウム」の報告
5/9　一般社団法人静岡県建築士事務所協会中部支部総会に出席
5/17　一般社団法人静岡県設備設計協会総会・設立記念式典に出席
5/24　一般社団法人静岡県建築士事務所協会総会に出席
5/29　公益社団法人静岡県建築士会総会に出席

＜愛知＞

4/17　愛知地域会監査、＜JIA東海支部監査＞
4/22　総務委員会
4/23　講演会　宇野勇治氏（※詳細はP14掲載）
4/24　愛知県建築技術支援センター事業調整会議
　　日本建築積算協会東海北陸支部　総会後の懇親会）
4/26　役員会
5/9　愛知賛助会役員会
5/10　役員会・通常総会＜JIA東海支部役員会・通常総会＞
5/14　愛知賛助会通常総会
5/16　日本建築構造技術者協会中部支部（総会後の懇親会）
5/17　愛知賛助会　ゴルフコンペ、
　　愛知県設備設計監理協会　一般社団法人移行交歓会
5/18　素材を訪ねる旅　「左官」
5/24　日本建築協会東海支部（総会後の懇親会）
6/1　JIA東海学生卒業設計コンクール　公開審査・記念座談会
　　会場：名古屋都市センター
6/15　JIA東海住宅建築賞　公開審査
　　会場：名古屋大学ES総合館

＜岐阜＞

4/24　通常総会
6/20　JIAの窓

＜三重＞

5/17　第1回例会・第2回役員会
　　（2013年度事業計画・予算について）
6/21　第2回例会（会員研修会：建材研修会）

06_アーキテクト.indd　23　13.5.23　4:38:27 PM

古くから受け継いできた葬送という文化
弔う事を今も大切に伝えます
信頼と真心の葬儀で130余年
一柳葬具總本店

一柳の「家族葬」

安心して任せられるのは一柳です

一柳の家族葬は 654,795円～
（日本建築家協会東海支部会員様会員割引価格）
紋朱子前机祭壇〈柳1号〉（枕花1対）葬儀費用 726,930円の場合

祭壇から葬儀後に必要な後飾りまでの一切を含んだ総額の表示をしております。

1. 表示金額は税込みです。一柳の斎場にて執り行う場合の金額となります。
2. 上記費用には、祭壇、棺、焼香用具、受付用品、葬儀飾り付けに必要なもの、ドライアイス1回、枕飾り用具、後飾り用具、後飾り生花1対、火葬料金と休憩所料金、寝台車料金（市内1回）、霊柩車料金、式場使用料（いちやなぎ斎場）が含まれております。
3. 2については標準的な数量・品質で用意していますが、食事、粗供養品など、数量・品質のご希望により変わるもの、また湯かんなどご利用いただくものは別途料金となります。
4. 宗教者へのお礼は別途になります。

◎ 宗教・宗派にかなった祭壇（価格）を200余種ご用意しております。

日本建築家協会東海支部会員様とご家族の皆様には、葬儀基本価格の15%を割引いたします

いちやなぎ中央斎場
名古屋市千種区千種二丁目19番1号
TEL（052）745－1212
地下鉄桜通線「吹上駅」⑥番出口より西へ700m
駐車場／170台以上

いちやなぎ野並斎場
名古屋市天白区野並三丁目538番1号
TEL（052）899－0111
地下鉄桜通線「鳴子北駅」②番出口より西へすぐ
駐車場／100台以上

創業130余年の伝統と実績
株式会社 一柳葬具總本店
ISO 9001 品質マネジメントシステムの国際規格 JQA-QM4191
葬儀のお申し込み、お問い合わせ、事前相談は
TEL.052-251-9296 365日 24時間 受付
http://www.ichiyanagi-sougu.co.jp 一柳葬具總本店 検索

編集後記

●今月号の連載の一つ「インドの都市から考える」第4回は「水辺の建築空間 ガート」と題して、柳沢究先生が執筆されている。インドの水辺の持つ意味が分かり興味深い。連載は読み込むとためになる事項が多々ある。しかし私は、つながりのある話が隔月掲載となるのはどうも違和感があり、原稿をためておられる執筆者は毎月連載がいいのではないかと思う。また、芸術系などの執筆者をお願いしたくとも、原稿を6回書ける執筆者は限られ研究者や大学の先生になる。2回、3回程度の連載も可とすれば、建築とのかかわりのある広範囲の執筆者が頼めるのではないか。編集委員会で今後検討することになった。

第8回JIA愛知美術サロン展が開催され、「JIA愛知発」で出展者の1作品とコメントが紹介されている。400名の来場者があり、皆さん精進の賜物かレベルが上がり、個性も発揮されていて、小生も出展者で手前味噌だが味のある美術展と感じている。しかし気に掛かるのは高齢化。40～50代に奮起を求めたい。（田中英彦）

●6月に入ってしまいました。梅雨入りも近づいてきました。今月号も多彩な読みごたえある連載が続いています。大影佳史氏の「まちの風景」も5回目を迎え、現代を生きる我々に多くの示唆を与えてくれます。先人が育んだ感性を継承していけるような環境づくり、大切な視点と受け止めます。また、毎号「自作自演」のコーナーが大変楽しみです。その人なりの関心事、心情が文面から伝わり、筆者の人間性まで垣間見られる思いです。

「東北からのメッセージ」「時空間の共有」には、改めて「リメンバー3.11」の思いを強く持ちました。全国民がそんな思いを共有し、東北の地に本当の喜びの感情が戻らん日が来ることを願い続けたいものです。「東海とっておきガイド」も55回と回を重ね、ストックが増えました。毎回、いつか訪れたいと思いつつ、念願どおり事が運びません。ストックを生かせる機会をぜひ得たいものです。

季節の変わり目です。皆さん、くれぐれもご自愛ください。（横山正登）

ARCHITECT
第297号
発行日 2013.6.1（毎月1回発行）
定価 380円
発行責任者 鳥居久保
編集責任者 吉元 学
編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部
名古屋市東区泉 1-13-35
CSC HISAYA BLD.
TEL（052）971-7479 FAX 951-3130
発行所 （公社）日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル
TEL（052）263-4636 FAX 251-8495
E-Mail：shibu@jia-tokai.org
http://www.jia-tokai.org/

06_アーキテクト.indd 24 13.5.23 4:38:28 PM